

最終レポート

ムンフバヤル バトラッフ



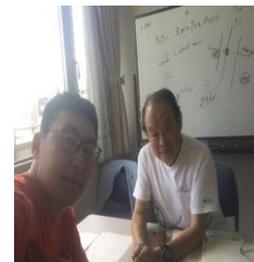
岡山に最初に来た時からずっと、日本人の人々の温かなもてなしには驚かされている。

オリエンテーションを受け、岡山城、後樂園、県立美術館のような重要な場所に行くことができた。日本に着いたときは非常に暑かったが、その恩恵を受けたそれぞれの季節の美しさを見ることができた。なかでも、後樂園の鯉は美しかった。

岡山県の助けで充実した研修を受け、モンゴルにそれを伝えることができることに感謝している。近隣の徳島県への視察ができたことも有意義であった。



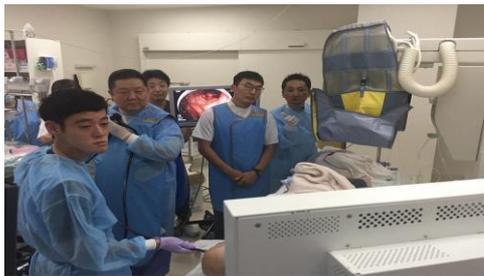
日本語講座を受講できたお陰で、他のドクターたちとのコミュニケーション力を向上させることができた。まずは岡山日本語センターの講師により 1 対 1 の講義を受けた。講師は教授法について素晴らしい技術を持っていた。その後受講した通常の講座でも、講師たちはとても親切で、興味深い議題での議論を講義の中でさせてくれた。結果として私は楽しみながら日本語のスキルアップを図ることができた。私の毎日の宿題は日本語で短い日記を書くことだった。その他、折り紙講習やバーベキューなど、日本文化をひろめたりみんなが集えるようなイベントがたくさんあった。



私は日本語講師の提供によるそれらのイベントがよい思い出になったと思っている。



近代的な診断の設備が整っている日本にある、岡山済生会総合病院で研修することは、忘れがたく成果の多いものだった。8月から9月の終わりまでの約2か月の研修では、胃、小腸それぞれの内視鏡のスキルを向上させることができた。この期間を通じて、胃上部内視鏡検査を150件、小腸に関しては130件の内視鏡検査をし、診断、治療にあたった。そのおかげで私の技術と知識が全体的にあがった。研修開始当初は一連の手順や、病院の方針などを観察するに終始したが、翌月には、胃の内視鏡検査を自分自身の手で実行することができた。指導員である那須先生のおかげで素晴らしいチームのなかでの研修を充実したものにできた。このような立派な機関で研修できたことに感謝している。



私はまた、肝臓の病気について診断の近代的な概念と治療法、新たな技術について効果的に学ぶことができた。これは私が岡山で得たもっとも重要な成果である。





Thank you for OPIEF, OJC, AMDA and Okayama Saiseikai General Hospital